

琵琶詩吟名匠録

日本琵琶楽協会
事務所 東京都港区西新橋一丁目
電話 一〇七七〇三七八九番

薩摩正絃会

事務所 東京都港区西新橋一丁目
電話 一〇七七〇三七八九番

日本国風流詩吟

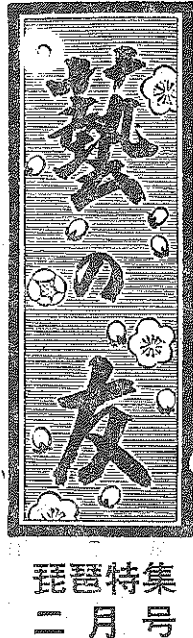
宗家 南宮国風
事務所 東京都港区西新橋一丁目
電話 一〇七七〇三七八九番

大館派琵琶洲楓会本部

家元 大館洲楓
事務所 東京都港区西新橋一丁目
電話 一〇七七〇三七八九番

錦心流琵琶

本部 松田静水
事務所 東京都港区西新橋一丁目
電話 一〇七七〇三七八九番



吟剣詩舞振興会
新春会式典盛儀



(笹川会長)

財団法人日本吟剣詩舞振興会の恒例による「新春のつどい」は、一月十一日正午より赤坂紀尾井町のホテルニューオータニで挙行された。当日は絶好の快晴に春陽きらめき全国より参集の振興会幹部役員二百余名と来賓の着席を待つて式典が始まり、笹川良一会長の祝詞が晴れやかに一段の華を添えた。続いて四十九年度全国大会少年部一位入賞者と青年部一位入賞者の巧吟並に剣舞と詩舞の美しい舞が初春を飾って満場の拍手を浴び賑やかな式典は終り、別室での祝賀の宴に移った。

昭和五十年二月一日発行

非売品

薩摩正絃会
164 東京 浅野晴風
165 東京 望月 江
166 東京 近藤 錦秋

錦心流琵琶派宗家
113 東京 水会本部
114 東京 前田 洲月
115 東京 中谷 襄水

ある理事長渡辺岳神師は、大正時代より現在まで吟道家として日本精神界と情操教化に貢献された功績により四十九年十一月二十一日藍綬褒章授与の恩典に浴し、文部大臣より伝達され、更に皇居に召され、天皇、皇后両陛下に拝謁ありがたい御言葉を頂いたとは真に一代の光栄で、吟史上に燦たる芳名を輝かされた。師は大正十五年に司法試験に合格して弁護士となられた温厚篤実の紳士で、堂々たる威容と順和寛容の風貌は万人信頼敬慕の的。財団法人日本吟剣詩舞振興会の副会長として權威高し。詩吟学院岳風会総本部役員一同は、渡辺理事長の受章を記念し祝賀会を一月十一日夕五時赤坂三會堂ビル石垣記念ホールにて催され盛大な祝典であった。

四の絃

一昨年晩秋に起った石油の暴騰値上げ問題に端を発した物価値上げ賃金大幅引上げでインフレが火勢を増し政財界に悲憤社会を来した。昨年には我が国に天災地変の災害も各地に起り不況による惨事も屢々あった。その一方で米大統領の初訪日が発現された外交史上に新記録を印した。▲田中内閣が三木内閣と代ったのはこの直後で今年の政財界の見通しはこれからの問題である。▲四絃子は百年の生れで昨年はずの支の年であったが十月決行した関西から九州への旅行は曾つてない愉しさを満喫した。▲東京と大阪では詩吟

静風流新年初吟会

現代吟詠界の女王と讃えられ徳の誉れ高い笹川鎮江女史宗家の静風流では、新春初吟会を一月十二日赤坂のホテルニューオータニで開催、鎮江宗家、飛田鳳琴、峯風麗両女史以下男女役員と会員等百余名が出席、新春初吟を競って第一声をあげた。

旭萃会東京本部 忘年演奏懇親会

筑前琵琶の名人山崎旭萃女師の東京本部では、十二月十五日午後一時より杉並区高円寺駅前料亭根津會館にて忘年演奏を兼ねた懇親会を催した。出席者は佐藤旭天紅木村旭桂、木下旭電、松村旭堂、井坂旭長、花方旭路、押川旭葉、原田旭鳳、山本、相葉、本山、野島、久保池、内田、後藤、青木、長井銀城、小島旭清、花輪旭興の本部会員、来賓に山崎旭萃、芸の友社鈴木善士、喜美子、鈴木流泉の四氏。演奏は当番幹事の原田旭鳳氏の「井伊大老」を序奏に、青木、後藤、内田、久保池、野島、本山、相葉、山本、原田、小島、木村、佐藤と各会員の熱心な演奏が続き、最後に山崎師の琵琶「安宅の関」の演奏あつて好感を与えて終る。直ちに懇親会に移り、山崎師が挨拶で「会員の上述を喜び一層の激励を」と述べ、鈴木社長が御礼の謝辞で「選曲の心得」を述べて舞台上立つ各人への心構えを促した。それより各員の隠し芸が出て大賑い。最後に万歳三唱して七時前散会した。

吉益旭扇老師の米寿祝賀つどい

東京琵琶界の長老であり最高長寿の名手で、和光会を二十余年間守つて來られた吉益旭扇老師が今年八十八歳の米寿に際しての

旭錦会の弾初会

筑前琵琶橋の巨匠で名人と称えられてゐる東京橋会の主柱山元旭錦宗範の旭錦会新年弾初会は、一月八日午後一時より世田谷区代田の代田八幡宮参集殿にて同会の長老吉益旭扇老師の米寿祝賀を兼ねて催された。当日は相續く雨降りであったが山元師を始め吉益老、膳場旭電、中島旭晋、稲葉旭隆、丸山旭壯、金子旭昭、城戸旭瀧、港旭令、佐々木、渡利、小川上武、齋藤、三善、村上、尾木、中村の各会員、来賓に角田旭岑、木下旭電、山田旭芳、各師範、鈴木木の友社長、原田旭鳳の諸氏が出席された。

晴風会新年演奏

東京琵琶界の名匠浅野晴風師の主宰する晴風会の新春演奏会は、一月十二日十一時より国鉄高円寺駅前の杉並区立高円寺會館で催された。快晴に恵まれた関係者の笑顔も晴れ晴れで、浅野会長が新年



(浅野晴風師)

浅野師リサイタル

筑前琵琶界の巨匠浅野晴風師は、一昨年春に新宿で第一回リサイタルを開き好評を受けたので、第二回リサイタルを五月二十四日に中野区立文化センターで開催するという。

本年の活躍を期待の花王 小原旭成師

戦後の琵琶復興の花形名手として大活躍された筑前美人小原旭成さんが、一時斯界を遠ざかっていたが、旧友好の切望により三年前より再起され、昨年「雅会」を結成し相提携して横浜にて発会演奏大会を開催、満員の盛況にて初成果を取つた。今年第二回の公演が内定しているが、それよりも目下放送とか老人慰問又は各会よりのお招きの申込みが多く多忙

正絃会新年演奏会

薩摩琵琶正絃会の新年演奏会は一月十九日午後一時より港区愛宕山の料亭菜根で開催、辻委員長の開会挨拶についで岩尾吟照(月下の陣)を先番に、大旗、正本、仲川、宮崎、栗原、大塚、遠藤、池野谷、佐々木、前田、鈴木、清川、辻の諸会員の順奏で初春の氣勢を上げ、終演後懇親会を開いて各位の健康幸福を祝つた。

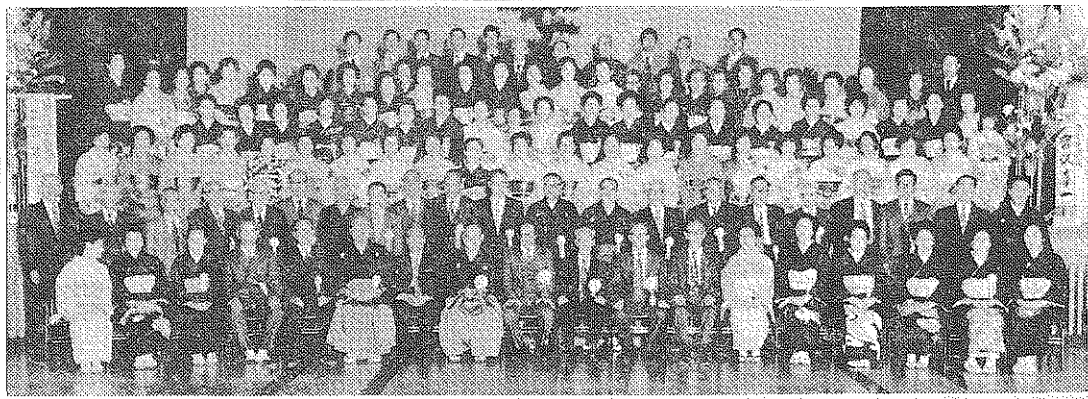
芸能実演家協議会 二月に第一回公演

芸能実演家協議会が創立されて久しいが、同会が昨年財団法人の組織となつたので、それを記念し披露を兼ねて第一回の公演を二月十九日国立小劇場に於て開催される。この会は演劇、音楽、舞踊から講談、落語その他諸芸の舞台活動家を組織され、一流大家が顔を連ねているだけにその公演は大きく期待される。演題は「道成寺」に関するものに限られてゐると、琵琶の出演者は松田静水師と鈴木六水師。

若手琵琶人の会が 三月に第二回公演

昨年二月に旗揚げの第一回公演を行い超満員の大人気で好評を受けた「若手琵琶人の会」では来る三月八日に日本橋第一証券ホールにて第二回目の琵琶演奏会を開催する由で目下準備中である。若手琵琶人の会事務所は今回中野区大和町一ノ四四ノ一〇山下晴楓方へ移された。

日本旭会第44回全国大会記念



筑前琵琶日本旭会主催の第四十四回全国大会は、昨秋十月十九、二十日の両日広島県福山市の市民會館に於て開催された。同会では、同日共満員の盛況であった。全国各地より代表出演の名匠と花形精鋭連の妙技競演はファンを魅了し、曲毎に声援の拍手起り頗る好評を受けた。写真は当日の記念で(前列)向つて右より富樫旭桂、西川旭操、中村旭園、原島旭粧、柴田旭堂、河野旭保、渡辺旭寂、理事長榊本旭風、副会長齋藤旭章、四世宗家橋旭翁、日本旭会長松岡旭岡、東京芸の友社長鈴木善士、大会委員長長川崎旭瀧、本旭福▲(二列目)右端藤巻旭陽、七人目喜多修、吉田旭明、田中旭昇、藤巻旭鴻、岩橋旭秀、黒田旭峰、大阪旭会長宮田、西生旭泉、松岡旭文の本部理事連と各名匠である。他の三、四、五、六列の各位は各地よりの代表または協賛出演された舞踊、華道、茶道、琴の名手と協力の名士諸氏であるが多数につき省略す。

二月に佐世保で 錦城会全国大会

現代吟詠界の王者と敬称される錦城流宗家山元錦城女師の錦城会総本部では、同会佐世保支部創立二十周年を記念し、来る二月九日午前十時より同市花園町市民會館に於て同会総本部主催、財界春秋社後援で錦城流全国大会を開催される。同大会には山元宗家並に副会長山元城光、夏秋錦穂、山本城



(山元錦城師)

旭会の全国大会 昭和五十年度

戦後復興した筑前琵琶旭会の全国大会は、逐年盛大を極めて会員親睦増進の社交機関であり芸術研鑽向上の研修場となり、会員各位には楽しい待望の社交場と喜ばれてゐる。昭和五十年度の旭会全国大会は、昨秋広島県福山市にて開催の全国大会総会の折り大阪旭会司会をとの希望が叶つて、司会大阪旭会が本極りとなり十月十八、十九両日大阪にて開催が決定された。

弘沢雨水師が 伝統芸術名流会 四月三越で開く

東京の琵琶界に気骨の名手で名

錦びわ小演奏会

錦びわ本部の水藤五郎氏は、同派の発展策として今年から年数回の小演奏会の実施を企画し、その第一回として新春一月十八日午後二時より新宿一丁目の洲鳳會館にて定期小演奏会を開いた。

名匠広瀬師の 織水会の演奏会

関西に於ける錦心流琵琶の元老

芸の友二十五周年記念へ祝辞

錦流琵琶宗家

伊東 入谷錦鳳



(入谷錦鳳師)

お元気で「芸の友」の限りなきご発展を心から御祈り申し上げ、お祝いの詞といたします。

一水会本都理事

支部長 中谷襄水



(中谷襄水師)

戦後低迷せる全琵琶界の再建に

昭和五十年を迎え、輝かしい春三月、「芸の友」創刊二十五周年並に誌齡三〇〇号を重ね、琵琶界に尽くされた多大な功績に心からお慶びとお祝いを申し上げます。一口に二十五年と申しましても戦後の混乱期から斜陽に在りました琵琶界の復興のため、お尽力頂いたご努力は並々ならぬ御苦労があった事と、身に沁みてお察し申し上げます。

梅は寒香を経て清香を発すとか傾けられた御丹精は、茲に実を結び、琵琶界も日を迫りて日本伝統の姿を取り戻し、隆盛を極めつつある事は、米寿を間近かの社長様並にご息女喜美子様の御熱意に依るものと深く敬意を表し、尊敬の念を禁じ得ません。

資するため「芸の友」創刊以来二十五年、社長鈴木善士先生御苦勞さまで。先生と初対面は昭和二十四年従兄鈴木鉦次郎宅で、大坪草二郎氏、水藤枝水氏、松田静水氏と竹下翠風さんが卓を囲んで懇談したときです。その時先生の斯界の将来に於ける御高説を拝聴し敬意を表し、爾来二十五年に及ぶ御交誼を戴き今もって感謝を表しております。

二十五年の永きに渉り一回の休刊もなく、その間輪禍、病魔を克服しての大活躍でも常人の及ぶところではありません。これからも益々全琵琶界の良き先達となり、琵琶人の指導と育成に貢献していただくと共に、創刊五十周年の達成を祈念してお祝いの言葉と致します。

写真は昨年十月二十日福山市で開催された筑前琵琶日本旭会全国大会の記念撮影で、向って右より高千穂旭楓、鈴木善の友社長、鈴木喜美子、日本旭会理事長榊本旭風、大師範柴田旭堂の各氏で、背景の花輪は祝花。(柴田師の会員が撮す)

筑前琵琶日本旭会 全国大会の記念

写真は昨年十月二十日福山市で開催された筑前琵琶日本旭会の第四十四回全国大会の二日目に会場福山市民館前での記念撮影で、向って右より高千穂旭楓、鈴木善の友社長、鈴木喜美子、日本旭会理事長榊本旭風、大師範柴田旭堂の各氏で、背景の花輪は祝花。(柴田師の会員が撮す)

横須賀琵琶連盟 会長 山田幻水



(山田幻水師)

世に十年一昔」と言うたとえがあり、その歳月は決して短いものではありません。況んや二十五年の間、一回の休刊もなく存続せられたことは、その御努力に對し最高の敬意を捧げるものであります。鈴木先生の事柄に就ては、故瀨戸角馬氏(横須賀)や前田秋声氏等から會つて先生が戦時前から朝鮮京城に於て新聞記者として活躍され、芸能界のため、特に琵琶界のため内地よりの琵琶人紹介または交流その他あらゆる点に御声援されし由を引揚げておられます。終戦後は母国に引揚げておられ、暗闇(くらやみ)の琵琶界をして今日の興隆に導かれたこととは、何人も絶讃に堪えない所でありませぬ。

加えて琵琶界が世界の音楽として発展して来たことなどは、全く「芸の友」紙の力が預ったものと察しられませぬ。鈴木先生は現在八十有数歳のご高齡で、その御活躍は真に我々頭の下るものであります。何卒ご健康にご留意の上いつまでも斯界の羅針盤的御存在であつて欲しいと祈念申し上げ茲に祝詞と致します。

前田秋声師夫妻が 新年を四国観光で



(前田秋声師)

東京琵琶界の重鎮前田秋声師は、夫人と共に十二月三十日四国観光に出発、足摺岬で初日を迎え全島を巡視して五日夜帰京された。師は一月二十日から東北路へ旅行され演奏後二十五日帰京予定で今年各地へ出演の申込みが来ていると張り切っている。

大館洲楓師静養



(大館洲楓師)

錦清流大館派の宗家大館洲楓師は、今年七十八歳の老齢を迎えられたが、平素頗る健康体であったが、昨年夏を終り頃より健康を害し以来令息の住居である埼玉県朝霞市田島五八八ノ三(大館清次氏)方で静養を続けられておられる由。師は斯界巨匠中独特の妙節優技の大家で他の追従を許さぬ至芸だけに一日も早い回復を祈っている。

一位会初公演 記念お写真



日本琵琶楽協会主催のコンクール一位入賞者で結成された一位会の初めての公演が昨年五月十一日午後一時から銀座六丁目の交詢社ホールにて行われた。一位獲得榮譽者は、昨年度まで十三名であるが

当日出演に支障三名あつて実際に出演者は八名であつた。十三名中故人となられた石坂鏡水、古田耕水両氏の死が一段と惜しまれた。写真は当日の記念で(前列)右より一位者須田誠舟、同小沢錦郎、同桑名洲聖、協合理事長辻晴剛、協会副会長吉川英史、協会顧問で芸の友社長鈴木善士、一位者新部桜水、同押川旭葉、同広瀬翠紅。(後列)右より藤巻旭彰、一位者山下晴楓、同石田脩水、協会員友吉鶴心、同藤巻旭鴻、同竹下翠風、同前田洲月、前奏者林田旭史、協会委員水藤五郎、前奏者清川嵐舟の諸氏である。

木原綾子女史の 錦流錦翠会研修会

現代の琵琶に梅花の香を放つ女流の花形千葉原船橋市の木原綾子女史は、その主宰する琵琶吟詠指導の錦流錦翠会長として、会員の修養と芸術研鑽のために研修会を時々開いておられるが、四十九年度最終会を十二月二十二日冬至の日に同市東部公民館にて催し、総務吉沢氏の挨拶、会主木原女史の挨拶、許状授与式が行われて研修会が開始され、二十余名の独吟、合吟が上演され、会主木原女史は吟と琵琶「石堂丸」と「大高源吾」の二曲を演奏して範を示し、特に大高源吾の曲は師走年の瀬を偲ばせて一同を深感させ拍手を呼んだ。

作家南部露庵氏 追悼法要盛大に

琵琶歌名曲「湖水渡り」作詩家

で知られる南部露庵氏の追悼碑が平戸市大久保の南部家墓地に建立され、昨冬十二月八日関係者有志數十名が参会して平戸市雄香寺で追悼法要が催された。この席上福岡市の筑前琵琶保存会の師範で名人の譽れ高い嶺旭嬢女師は、高弟青山旭子さんと「湖水渡り」の故人作歌を演奏して慰霊の真を捧げ参列者一同を感激させて賞讃された

札幌紅水会の 義士講琵琶大会

札幌琵琶界の功勞者山崎紅水師の紅水会では、赤穂義士の誠忠を偲ぶ義士講を組織し毎年十二月に義士伝曲の演奏会を開く習わしであるが、四十九年度は十二月十五日開催、山崎会主、加藤、金子、上田、荒木、木村、若林、広川、渡辺、中井、森、天野、小幡、木、井上、塩谷、安達、室谷、黒間、登坂、渡谷、草薙、沢田諸氏と他数名が出演されて琵琶と詩吟舞踏等三十余を上演、来場の大衆を喜ばせ賑わった。

若林鶴山氏が 四月に琵琶大会

小田原市に於ける琵琶開拓の先覚大家で、名人と敬われた故野地洲城師の直門で、美声の巧者で知られる若林杏雨(鶴山)氏は、恩師亡き後は暫々詩吟や琵琶の會に姿を見せる程度で、消極的な動きであったが、来る陽春四月十二日には小田原市民会館に於て琵琶名流演奏会を開催し市民慰安と愛好家のご支援に感謝の意を表す。

旭鴻会、東部旭会 合同新年の初会

東京筑前琵琶の名人大師範藤巻旭鴻師の旭鴻会一門と、東部旭会が合同して一月十九日正午より豊島区高松町の高三会館にて新年初演奏会を催し気負をあげ、終演後祝宴を開いて相互の健康と奮闘を誓って乾盃し大賑いであつた。

山崎、柴田両名人 東京の新年会出演

筑前琵琶の名人、大阪山崎旭琴神戸柴田旭堂両師は、一月三十四日三越の名流新年会へ出演す。

武絃会の研修会

東京小金井市にある武絃会と錦心流一水会多摩支部では、十二月十五日午後共同研修会と同日福祉会館にて開き、伊東警水支部長始め、押谷、松田、石井、伊集院、高杉、城本、小川、篠宮、工藤、中村修水、清水源城、菊地甘水の各氏出演されて技を競われ、終演後忘年会に移り七時半散会した。

鹿岡武二翁逝去

鹿岡島市の薩摩琵琶の名人で、同県無形文化財指定保者、勲六等旭日章受章の鹿岡武二翁は、心不全と高血圧症で入院治療中の旭十二月十七日午後一時遂に逝去された由。享年九十四歳。翁は薩摩琵琶界の最長老で同好会の顧問であり斯道七十年に及ぶ先覚者。明治十三年生れの純鹿岡島人で二十歳の頃から琵琶道に入り、独特の芸風で鳴らした無比の名人である。往年東上されて東京の同好者に豪壯幽玄の妙技を披露され絶讃を博した事もある。茲に謹んで敬悼す

斎藤鉄舟氏逝去

横浜市港北区の薩摩琵琶の長老齋藤鉄舟翁(本名鉄郎)は、老衰のため十二月十九日死去された、享年八十二歳。老は鉄山事業で十数年東東北方面へ長らく出張され琵琶界人との交流もあり誠実の人柄で受けも良かったのは惜しい。謹んで御冥福を祈り申す。



一位会初公演 記念お写真

日本琵琶楽協会主催のコンクール一位入賞者で結成された一位会の初めての公演が昨年五月十一日午後一時から銀座六丁目の交詢社ホールにて行われた。一位獲得榮譽者は、昨年度まで十三名であるが

当日出演に支障三名あつて実際に出演者は八名であつた。十三名中故人となられた石坂鏡水、古田耕水両氏の死が一段と惜しまれた。写真は当日の記念で(前列)右より一位者須田誠舟、同小沢錦郎、同桑名洲聖、協合理事長辻晴剛、協会副会長吉川英史、協会顧問で芸の友社長鈴木善士、一位者新部桜水、同押川旭葉、同広瀬翠紅。(後列)右より藤巻旭彰、一位者山下晴楓、同石田脩水、協会員友吉鶴心、同藤巻旭鴻、同竹下翠風、同前田洲月、前奏者林田旭史、協会委員水藤五郎、前奏者清川嵐舟の諸氏である。

木原綾子女史の 錦流錦翠会研修会

現代の琵琶に梅花の香を放つ女流の花形千葉原船橋市の木原綾子女史は、その主宰する琵琶吟詠指導の錦流錦翠会長として、会員の修養と芸術研鑽のために研修会を時々開いておられるが、四十九年度最終会を十二月二十二日冬至の日に同市東部公民館にて催し、総務吉沢氏の挨拶、会主木原女史の挨拶、許状授与式が行われて研修会が開始され、二十余名の独吟、合吟が上演され、会主木原女史は吟と琵琶「石堂丸」と「大高源吾」の二曲を演奏して範を示し、特に大高源吾の曲は師走年の瀬を偲ばせて一同を深感させ拍手を呼んだ。

作家南部露庵氏 追悼法要盛大に

琵琶歌名曲「湖水渡り」作詩家

告知

日時 三月八日(土)午後五時半開演

会場 日本橋三越前 第一証券ホール

主催 若手琵琶人の会

第二回演奏会

後援 日本琵琶楽協会、日本芸能顕彰会、石田琵琶店

新作琵琶歌

松原青山作詞

「運命の戦艦」
仰げば空に幾万の、雄魂永久に
輝らざる、悲痛無惨の海原に、打
ち寄す波の裏に、変り果てた
る憂き世哉。時は昭和の二十年、
四月六日の昼下り、戦艦大和は残
存の、巡洋艦と駆逐艦、合めてわ
づか九隻を、二度と還らぬ特攻
に、沖繩目指して進みゆく。ここ
に大和の戦力は、敵主力艦を壊
滅し、野砲十個師団の破壊力、米
軍が共に恐れたる、七万噸の巨艦
なり。総員三千有余名、三田尻沖
をあとにして、遙かに見える蘭澳
の、花は語らず山答えず、夕陽邊
の島々や、故国の姿想いつつ、誰
れのたぐらむ業なるか、抗し得ぬ
時の激流に、深き悲しき出来事を、
神に託して兵が、暗夜の海を航進
し、大隅海峡に進入す。暗雲低く
たれこめし、雲間を突いて一機二
機、次第次第に敵を増す、敵空母
より放たれし、雷爆撃の大編隊、
一波去れば又一波、潮の如き攻撃
に、無念や大和は世に誇る、主砲
はうすず西鼓の、機関砲や機関
銃、一四〇門一斉に、火を吹き放
ち敵艦す。

を承らえて、祖国の為に尽くせか
し、我今艦と運命を、共に迎るは
武人の、誉れに非らず職責の、道
に生きんが為めなるぞ。奮戦力闘
二時間余、沖繩地区の米陣地、粉
砕せんも夢なれや、主砲の弾薬千
三百、火災の為に誘発し、徳之
島北方の海上に、戦艦大和は轟沈
す。嗚呼天なるか命なるか、壮烈
無比の特攻は、三千人の英霊と、
戦艦大和諸共に、名を後世に残す
らん。

琵琶詩吟名匠録

- 琵琶振興会月例会
東京琵琶界に彼の巨匠と定評ある
鈴木流泉師会長の日本琵琶振興会
の十二月例会は、二十二日新宿洲
風会館で開き忘年会として終演後
乾盃を行った。五十年一月の初例
会は二十六日に開催される。

琵琶詩吟名匠録

- 筑前琵琶日本旭会
本部 102 東京都千代田区三番町三
ノ二 橋本旭翁方電 〇三三三
筑前琵琶日本旭会
会長 松岡旭岡
520 大津市津坂一丁目二ノ二
電話 〇七三(24)九三三八番
副会長 齊藤旭章
102 東京都千代田区三番町三
ノ二 橋本旭翁方電 〇三三三
理事 榎本旭風
537 大阪市東区神路ノ八ノ六
電話 〇三三(三)四番 〇三三(三)
詩吟詩風流風風会
旭風笠川鎮江
112 東京都文京区千石町三ノ三
電話 〇七三(三)七三二番
筑前琵琶橋本会師範
旭邦会 大坪旭邦
154 東京都世田谷区梅丘ノ一ノ六
電話 〇五六一〇番
筑前琵琶旭章会
大和流詩吟
山崎旭萃
569 大阪府高槻市津之江町ラララ
電話 〇三三(三)六五八〇番
筑前琵琶 詩吟教授
橋本会 山元旭錦
166 東京都杉並区成田西一ノ六ノ三
電話 〇三三(三)六一二二番
事務局長 岡崎市橋本七(七)橋本
事務所 444 岡崎市橋本町七(七)橋本
電話 〇五二(二)二一〇番

琵琶詩吟名匠録

- 筑前琵琶日本旭会
大師範 押田旭窈
160 東京都新宿区三栄町一六
電話 〇三三(三)四五九一
筑前琵琶日本旭会
大師範 河野旭保
802 北九州市小倉区馬場一ノ四
電話 〇五二(八)三三〇番
筑前琵琶旭堂会
大師範 柴田旭堂
651 神戸市東灘区上筒井通一ノ四
電話 〇七三(二)一六一番
筑前琵琶旭鴻会
大師範 藤巻旭陽
171 豊島区高松町三ノ三 電話 〇三三(三)
大教司 藤巻旭彰
349-01 埼玉県蓮田市御前橋一ノ
電話 〇三三(六)八(五)二番
筑前琵琶博多旭蝶会
旭中旭嶺
154 東京都世田谷区野沢四ノ七ノ一
電話 〇七三(四)七四五番
筑前琵琶橋本会師範
大和流詩吟
板谷旭邑
730 大阪市橋本町一〇一五号
電話 〇三三(二)三三九一
筑前琵琶橋本会事務局
事務局長 堀田旭甲
444 岡崎市橋本町七(七)橋本
電話 〇五二(二)二一〇番
筑前琵琶橋本会師範
旭柳会 松本旭柳
461 名古屋市東区東外堀町二ノ二
電話 〇五二(二)二六〇番

琵琶詩吟名匠録

- 日本芸能顕彰会
理事長 鈴木次郎
114 東京都北区田端町一五三
電話 〇三三(六)六六一番
正派薩摩琵琶詩吟
最上穂洲
031 八戸市市八ノ九十一
電話 〇三三(二)八七五番
静岡県吟詠同志会副会長
伴野鶴風
420 静岡市中央区三丁目一ノ二
電話 〇五二(六)九四四番
薩摩琵琶南風会
田川富峯
事務所 920 金沢市長町一丁目四ノ一
電話 〇三三(三)二一〇番
鎌倉琵琶
春山会 我龍城
248 鎌倉市長谷一丁目一ノ三
電話 〇三三(七)九〇二番
錦心流一水会中央支部
村上空城
110 東京都台東区下谷ノ八ノ八
電話 〇三三(一)一五番
空城流吟舞詩吟
011 秋田市旭南一ノ三ノ一
電話 〇六(二)三五九番
薩摩琵琶
柏木篁道
125 東京都葛飾区鎌倉町四ノ元
電話 〇三三(六)一九四七番
天野徳水
065 札幌市東区北二ノ一条東
六丁目 電話 〇一四(九)五二二番
錦心流琵琶
石田脩水
257 神奈川県秦野市町六ノ三
電話 〇三三(八)〇二二番

琵琶詩吟名匠録

- 筑前琵琶旭社
師範 原島旭粧
160 東京都新宿区西新宿六ノ七
電話 〇三三(三)五五六四番
静風流詩吟、琵琶
鳳麗峯旭孝
177 東京都葛飾区東大泉町一四
電話 〇三三(三)〇四〇番
筑前琵琶旭紅会
師範 大津旭紅
167 東京都杉並区南荻窪ノ三ノ一
電話 〇三三(三)一〇五番
筑前琵琶旭昇会
師範 田中旭昇
653 神戸市長田区梅ヶ香町一ノ五
電話 〇七三(〇)〇一八番
筑前琵琶橋本会師範
木下旭竜
272-01 千葉県原簿安町橋本一四一
電話 〇三三(五)三六四番
大和流詩吟
師範 安藤光鵬
158 東京都世田谷区栗川西ノ三ノ一
電話 〇七三(三)二二二番
筑前琵琶橋本会師範
旭瑛会 佐伯旭瑛
577 東京都文京区徳大寺一ノ八二
電話 〇七三(二)一四八二番
筑前琵琶橋本会師範
林田旭城
522 茨城県水戸市中央町六ノ三
電話 〇三三(三)三三六番
筑前琵琶橋本会
師範 押川旭葉
250-04 神奈川県川崎区橋本二ノ三
電話 〇三三(二)二二〇番
詩吟江流流石河旭豊
464 名古屋市千種区徳川山一ノ三ノ七
電話 〇三三(八)七八〇九番

琵琶詩吟名匠録

- 錦心流琵琶
愛吟会 山田幻水
237 横須賀市船越町一ノ五〇
電話 〇三三(六)三六七六番
都派琵琶家元
錦 都派琵琶家元
113 文京区根津二丁目一五〇
電話 〇三三(三)五七〇八番
薩調四絃玉山会
千葉玉山
171 東京都豊島区長崎ノ三ノ二
電話 〇三三(一)八七一〇番
日本錦古流総伝教師
四方田錦隆
375 藤岡市古桜町一ノ二四六
電話 〇三三(三)二二四六番
吟詠教授、吟松会
会長 中村松聲
430 浜松市蓮谷町三七一
電話 〇三三(七)七六六〇番
錦心流琵琶
加藤錦陽
181 三鷹市井の頭三ノ一九ノ六
電話 〇三三(四)七九六五番
琴琵琶本部
琴琵琶本部
168 東京都杉並区下高井戸
電話 〇三三(三)三〇三(天)
琴琵琶、翠紅会
廣瀬翠紅
187 東京都小平市仲町一ノ九〇
電話 〇三三(三)四二四三番
筑前琵琶橋本会師範
北村旭良
680 鳥取市片原四ノ二七
電話 〇三三(八)三三番
筑前琵琶橋本会師範
久徳旭蘭
651 神戸市東灘区八幡通四ノ二ノ一
電話 〇三三(二)二二〇番
筑前琵琶橋本会師範
若宮旭登
189 東村山市美住町一ノ久米川
電話 〇三三(三)三三三番
筑前琵琶、詩吟授橋本流
師範 佐野旭晴
657 神戸市東灘区上河原通三ノ四
電話 〇三三(二)二二〇番

精密部品加工業(腕時計部品)
ネクタイ整形具(タイフレンド)製造販売
平井精密工業 有限会社
本社 所沢市日吉町17-13 電話 0429 (22) 3175
工場 所沢市荒幡 218 電話 0429 (22) 3660
社長 平井円吉(洲誠)

染料・染色助剤・化学工業薬品
合成接着剤・界面活性剤・製造卸商
登録商標 株式会社 戸谷染料商店
社長 戸谷曙水
本社 東京都台東区下谷2丁目8の9
電話 (873) 3111, 3112, 3113, 3114, 3115
工場 埼玉県草加市吉町1丁目5の21番地
電話 草加 0489 ② 4955 番

お酒と新鮮魚
大衆的実質酒場
荒井屋
友吉健ちゃん
東京浅草雷門横
電話(844)四二五一番

創業明治十一年
石田琵琶店
東京都港区芝田町八番九
電話 〇三三(六)五五八番
西久保巴町電停横大通り

最古の伝統と最高の技術
薩摩琵琶 専門製作
附属品一式
薩摩琵琶 愛吟集
各定価1,000円
送料 85円

筑前琵琶製作
三田村琵琶製作
三田村楽器店
東京都渋谷区神山町八番地三
NHK放送センター西口前
電話 〇三三(六)八二二番